

文化財だより 第157号

- 磐田の民俗行事
「豊岡地区の大念仏」のDVDが完成！ ・ P1～3
- 文化財課ニュース ・ ・ ・ ・ ・ P4
- コラム『当目（とうめ）石のこと』竹内直文 P4

磐田市教育委員会教育部文化財課 平成30年4月1日発行

磐田の民俗行事

「豊岡地区の大念仏」のDVDが完成！

遠州大念仏をご存知ですか？遠州大念仏は、初盆の家を訪れ、笛や太鼓、鉦の音を鳴らしながら念仏踊りを披露し、故人の供養を行うもので、お盆に行われる遠州地方の郷土芸能のひとつです。市内では現在、豊岡地区の念仏組7組（大平、合代島、壺貫地、松之木嶋、三家、大楽地、上神増）と豊田地区の加茂の念仏組が大念仏を伝えています。

このたび、平成27年から豊岡地区の大念仏を取材した成果をまとめたDVDが完成しました。このDVDは市内図書館で閲覧・貸出できるほか、豊岡地区の交流センターでも借りることができ、夏の行事、豊岡地区の遠州大念仏をいつでも見ることができます。

図書館で閲覧・貸出できます！

豊岡中央交流センター・豊岡東交流センターで貸出できます！

保存版

念仏組ごとに約2時間にまとめました

DVDは全種類非売品です。



すべてガイド本つき！

普及版

(約80分)
各組10分程度の映像を1枚にわかりやすくまとめました

ちょっと見てみたい方は、市ホームページから！



短縮版
各組3分程度の映像です

磐田市役所→磐田のみどころ
→無形民俗文化財

豊岡地区の大念仏のはじまり、はじまり～

遠州大念仏は、浜松城主だった徳川家康が武田信玄と戦った三方ヶ原の戦い(1572年)で亡くなった人をとむらうために始まったともいわれています。江戸時代には多くの村々でお盆の行事として行われていたようです。豊岡地区に、いつどこから伝わったのかは定かではありませんが、大平に残る古文書から、江戸時代中ごろには豊岡地区でも行われていたことがわかります。

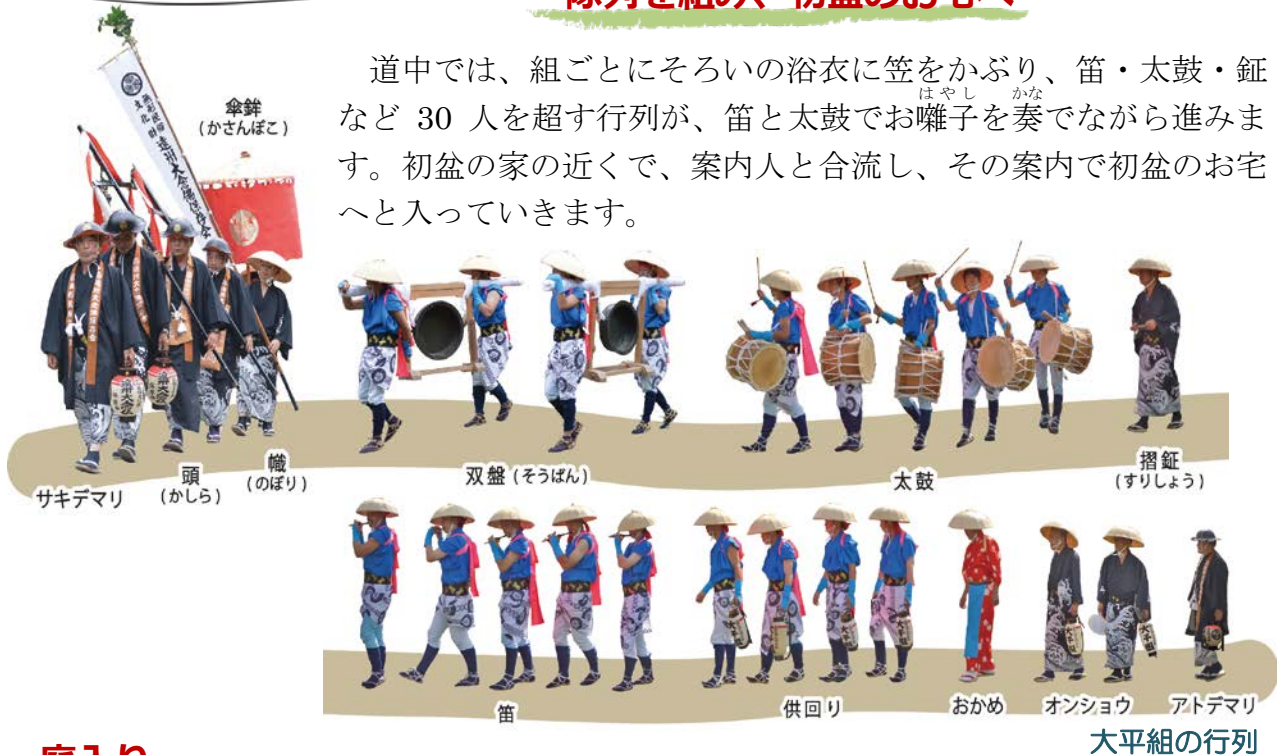
大念仏が盛んになった江戸時代に禁止令が出されたり、太平洋戦争で中断するなどの時期がありましたが、大念仏を伝えたいという人々の熱い思いにより、経験者や近辺の念仏組の指導を受け、戦後に復活しました。



遠州大念仏の動きを
ちょっとだけ解説!

隊列を組み、初盆のお宅へ

道中では、組ごとにそろいの浴衣に笠をかぶり、笛・太鼓・鉦など 30 人を超す行列が、笛と太鼓でお囃子を奏でながら進みます。初盆の家の近くで、案内人と合流し、その案内で初盆のお宅へと入っていきます。



庭入り

大念仏の行列が庭に入ると、時計回りに回り、太鼓は中央へ、その後ろへ双盤と笛、オンショウ（歌枕の歌い手）、供回り（太鼓の交代用員でオンショウの補佐）が所定の位置に並びます。頭先（仏参）は祭壇に礼拝し、施主へ挨拶します。

豊岡地区の大念仏で
「四方差し」をおこ
なうのは大平組だ
け!



庭入り前の地鎮「四方差し」



庭入り 時計回りに回る

大念仏供養 (回向) えこう



太鼓の踊りと笛、双盤、摺鉦すりしょうなどの楽器が奏でる音の中、オンショウが故人を偲ぶ歌枕を歌います。太鼓は飛び跳ねながらバチで太鼓を切るように打ち下ろします。この仕草から「太鼓切り」とも呼ばれ、遠州大念仏の特徴の一つです。

オンショウの歌が扇子の風に乗って揺れる



腕を大きく振り上げたり、腰を落としたりと体中を使っての太鼓切り



休憩と礼念仏

大念仏供養が終わると、施主から飲食のもてなしがあります。飲食のもてなしのお礼に、大念仏供養の半節分を演じます。ここでは、おかめ、ひよっところが登場し、コミカルな踊りで場をなごま和せる念仏組もあります。

笛と鉦の音で舞うおかめ、ひよっこ

退出

礼念仏が終わると笛や鉦が「出囃子」のテンポの速いリズムに切り替わります。太鼓は長いバチに持ち替え、円陣となって激しく踊りながら、退出します。最後に、大念仏組の役員が施主に挨拶をして、約 50 分間にわたる大念仏が終了し、次のお宅へ向かいます。

激しく踊る太鼓



DVD で、市ホームページでみれる民俗行事！

豊岡地区に伝わる遠州大念仏のほか、大楽地に伝わる『おんべえ こんべえ』、国指定文化財である『見付天神裸祭』、『米とぎまつり』も市内図書館で DVD の閲覧が出来ます。また、市ホームページから短縮版もご覧いただけます。ぜひご覧ください。

※各種 DVD の販売はおこなっておりません



文化財課 ニュース

文化財課キャラクター
ともちゃん

いわた文化財だより合冊版、4月2日販売開始!

毎月1日発行の「いわた文化財だより」平成25年8月(第101号)から平成29年9月(第150号)までを1冊の本にしました。

遺跡、建造物、石造物、民俗など、市内の様々な文化財を紹介しています。読むときっと市内の歴史をめぐりたくなる、お勧めの1冊です。

●発売日 2018年4月2日(月)

※発売日当日は、埋蔵文化財センター、歴史文書館でのみ販売

●価格 1,000円(A4版カラー 216ページ)

●販売場所

埋蔵文化財センター(8:30~17:00/休館:土・日・祝)

磐田市見付3678-1 TEL:0538-32-9699

旧見付学校(8:30~16:30/休館:月・祝日の翌日)

磐田市見付2452 TEL:0538-32-4511

歴史文書館(8:30~17:00/休館:土・日・祝)

磐田市岡729-1(竜洋支所2階) TEL:0538-66-9112

身近な地域の歴史情報が満載!



職員リレー コラム

当目(とうめ)石のこと

竹内 直文

当目石と呼ばれる石があります。焼津市浜当目の^{こくぞうさん}虚空蔵山に産する石で、濃い緑色をしているので、すぐそれとわかります。

「焼津市史」によると、昭和10年くらいまで石の採掘が続いていたらしいのですが、今も残る石切り場に行ってみると、それほど大規模な石切り場ではありません。それにしても焼津市周辺では^{とうめう}灯籠、鳥居、墓石など、この石をよく見かけるので、他にも採掘場があるのでは…と疑ってしまいます。

当目石は、遠州地方でもまれに見かけますが、市内でも鎌田の鎌田兵衛の墓に使われています。また、袋井市友永の源



なへ
那閉神社常夜灯
(焼津市指定文化財)



伝・鎌田兵衛墓(市内鎌田)

朝長の供養塔にも同じ当目石が使われています。

鎌田兵衛(政家、正清とも)は源朝長(頼朝の兄)の父・源義朝の重臣ですから、二つの石塔に同じ石が使われているのには深いわけがありそうですが…。

焼津市と磐田市にまたがるミステリー。いつの日か、手がかりが見つかるといいと思っています。

編集後記 豊岡地区伝承の大念仏のDVDを作成するにあたり、多くの方のご協力を賜り、誠にありがとうございました。

発行: 磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所: 〒438-0086 磐田市見付3678-1
電話: 0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。

磐田市 文化財だより

検索



©磐田市